

佳作

いじんのなかのいじ

大阪府 大阪教育大学附属池田小学校一年 林 玲緒奈

わたしのおばあちゃんは、きよねんのあきに、しんきんこうそくでしんぱいていしになりました。おじいちゃんがきゆうきゆうしゃをよび、わたしもきゆうきゆうしゃにのって、まよなかにびょういんにいきました。

びょういんでは、とてもふあんでした。でも、三じかんくらいたったら、ちょっとおなかがすいてきました。わたしは、おじいちゃんに、

「おなかがすいたよ。」

といいましたが、まだちかくのおみせは、あいていませんでした。かんごしさんがちかくをとおりがかったので、

「おなかがすいたよ。」

というとおかしをもってきてくれました。また、すこししてから、そのかんごしさんが、

「つかれたでしょ。」

といって、ベッドのあるおへやでやすむようにしてくれました。とてもうれしかったです。しばらくそのへやでやすんでいたら、かんごしさんがよびにきました。せんせいが、おばあちゃんのしゅじゅつのけっかをせつめいしてくるそうです。

せんせいは、

「しゅじゅつがうまくいって、おばあちゃんは、たすかりましたよ。」

といってくれました。三十二ふんかんもしんぞうがとまっていたそうです。そのあとおばあちゃんは、三かんでいしきがもどり、三しゅうかんでたいいんしました。

ことしのなつやすみになって、おばあちゃんとおじいちゃんといっしょにびょういんへ、おくすりをもらいにいきました。ロビーで、

「はやしさん。」

というこえがしたので、そちらをみるとあのときのかんごしさんでした。おじいちゃんがおばあちゃんに、そのときのことをせつめいすると、おばあちゃんには、ていねいなおれいをいいました。わたしもおれいをいいたかったのですが、はずかしくていえ

ませんでした。でも、こころのなかで、「ありがとう
ございました」といいました。

いえにかえてから、こんどあのかんごしさんに
あつたら、きちんとおおきなこえでおれいをいおう
とおもいました。いくらこころのなかでおもって
いても、こえにだしていわないと、ほんとうのきもち
はつうじないからです。こんどは、きっといいます。
「ありがとうございました。」